

医療経営者のための経営情報誌

ハートフル・メディカル旬報

岡税務労務会計事務所

TEL 092-851-3689

FAX 092-851-7403

医療法人経営者のための経営学

個室化の 8 つのメリット

1. プライバシーの回復
他人の存在を常時意識することから生まれる緊張からの解放。視線や声、音、匂いなどを気にしなくても良いという安心感から本来の自分を取り戻せる。
2. 自己存在の確認
所在場所・持ち物の認識から「室内整理」や「身の回り動作」を開始するようになった。
3. セルケア動作の回復
従来の“されるがまま”の一方向的・受動的介護から、着替えるときに手を動かしたり、オムツを替える時に腰を持ち上げるなど、介護者に協力するようになる。
4. 処置・看護・介護の個別化
5. 物品の個別使用
6. 家族単位の療養が可能
家族の訪問回数の増加、訪問者の滞在時間の延長、家庭や家族との会話が気がねなくできるようになり、入院者の退院願望が維持できるようになる。
7. インフルエンザなどの空気感染リスクの低下
8. 性別や重症度等の病室の振り分けが不要になる

(参考:「医療経営情報」2004 年 10 月号)

行政からの情報

「日常医療圏」制度

1. 厚生労働省は、2 月 14 日、「平成 18 年の医療制度改革を念頭においた医療計画の見直しの方向性について」と題した資料を公開した。厚労省は、2006 年の通常国会に医療法改正案を提出する方針だ。現行の医療計画については、医療提供体制の効率化や質向上につながっていないなどの問題点が指摘されている。そのため、医療計画制度の見直しの柱として、住民、患者にわかりやすい保健医療制度の実現、質が高く効率的で検証可能な保健医療体制の構築、都道府県の自主性・裁量性による地域に適した保健医療体制の確立を提示。
2. 都道府県の役割については、「日常医療圏」ごとに必要な医療資源を把握し、目標達成に向けた方策を医療計画に明示する。「日常医療圏」は、現行の医療計画制度にない概念で厚労省は「日常生活において、原則として、主要な病院ごとに患者が必要とする外来・入院医療が完結する圏域」と説明している。(2005 年 2 月 14 日 現在)

医療経営者のための危機管理

新業態「漢方ブティック」の登場

1. 便秘や肌荒れ、ダイエット、更年期障害など、女性特有の悩みを解決するとの評判で、漢方が人気を集めている。漢方薬局といえば、墨書きの古風な看板に昇り旗、薄暗く独特のにおい、がして……そんな古い蒼然としたイメージを一新するオシャレな「漢方ブティック」が東京・新宿のデパートにお目見えした。
2. 全国約 40 カ所に漢方薬局を経営する薬日本堂(株)が打ち出した新業態(漢方ブティック)で、20 代、30 代の女性でにぎわう。漢方成分を配合した化粧品や健康食品、体質別にブレンドした漢方のお茶が飲めるカフェもある。一人、ひとりの体質や体調などに合わせ、相談員がカウンセリングしながら、各種商品を紹介する。同社では既存店の改装を進め、「漢方ブティック」を 7 ケ所に増やす。薬膳レストラン、漢方セラピーの機能も併設する。

(参考:「野村週報」2005 年 2 月 28 日号)

古典に学ぶ

生も死もちがいはない

「大塊、我も載するに形を以ってし、我が劣するに生を以ってし、我を佚するに老を以ってし、我を息わずに死を以ってす。故に吾が生を善しとするは、すなわち吾が死を善しとする所以なり」

(訳)「大塊」とは、天地である。自然の理法と言ってもよい。われわれは天から人間としての形を与えられ、生を負うて苦しみ、老いて迎えて安らぎ、死を得て憩いにつく。だとすれば、生をよしとして肯定するなら、死もまたよしとして肯定されなければならない。

(参考:守屋洋「老子・荘子」): P H P 研究所